

Field Report

矯正治療中の歯間ケアに有効な
電動デンタルフロス

沖縄県中頭郡 アドベンチストメディカルセンター
 歯科衛生士 喜屋武 利香
 歯科衛生士 柴田 恵

私たちは主に矯正歯科を担当する歯科衛生士です。一般的にブラケットなどの矯正装置を装着するワイヤー矯正を行う場合、セルフケアにテクニックが必要なこともあり、通常の患者さんに比べ、う蝕や歯肉炎のリスクが高くなる傾向があります。特にカリエスリスクの高い患者さんの場合、その傾向が顕著に現れるため、当院では、すべての患者さんを対象に、治療前の唾液検査を実施し、リスクファクターであるう蝕菌や唾液緩衝能などを調べるようにしています。

ただ、ご自身のブラッシング技術で

は口腔内の汚れをキレイに除去できない方は年齢を問わずいらっしゃいますから、前回のデンタルマガジンで紹介した「ソニックアー」をセルフケアにお使いいただくようにしています。

さらに今回は、矯正治療中の患者さんに、電動デンタルフロス「ソニックアーエアーフロス」を実際にお使いいただきましたので、その使用感について症例写真を交えながらご報告いたします。

「ソニックアーエアーフロス」には「エアーフロスウルトラ」（以下ウルトラ）「エアーフロス8000」（以下8000）

の2種類がラインナップされています。

患者さんにお薦めする前に私たちも試してみましたが、ウルトラの方が噴射される水とエアアーが優しい感じなのに歯間部の汚れがキレイに除去できているように感じました。ウルトラに搭載されている高速3連続噴射機能の効果によるものと思われます。ノズルは8000に比べて少し長いのですが、その分太くなっているため近距離でも角度を安定させた状態で当てることができます。

一方、8000は噴射する水とエアアーのパワーが強く、最初は少し驚きました

 <p>エアーフロスウルトラ</p>	<p>トリプルバーストテクノロジー 高速3連続ジェット噴射機能により、歯間の歯垢を逃さず除去。</p>  <p>3連続ジェット噴射</p>	<p>高性能ノズル ノズルから加圧された空気とミクロの水滴を噴射し、歯と歯肉の境目や、奥歯や歯間の届きにくい所の洗浄も効果的にできる。</p>  <p>3段階噴射回数カスタマイズ機能 お好みに合わせて、1回、2回、3回の連続噴射から選択可能。</p>  <p>3段階噴射回数カスタマイズ機能</p> <p>好みの設定に調整</p>
 <p>エアーフロス8000</p>	<p>マイクロバーストテクノロジー 高速の空気とミクロの水滴で歯間を一掃。</p>  <p>歯間に詰まった歯垢や食べカス</p>	<p>角度のついたノズル 奥歯の歯間に届き、口を大きく開けなくても簡単に歯間の洗浄が可能。</p>  <p>連続噴射機能 たった30秒*でお口の中の全ての歯間を洗浄。一般的なデンタルフロスよりも簡単にスッキリさせることが可能。</p> 

* 連続噴射機能使用時 / 連続噴射機能を使わない通常使用の場合、お口全体の歯間洗浄は約1分程です。



「エアーフロスウルトラ」
 「高速3連続ジェット噴射」
 の解説動画はこちらのQR
 コードから

「ソニックアーエアーフロス」には機能別に2種類のモデルがラインナップされている。

が、こちらも歯間に詰まった歯垢や食べカスをキレイに除去してくれました。ノズルがウルトラに比べて細くなっているため、狙った部位にピンポイントで当てることができ、手早く歯間部分をケアしたい方には8000が有効かもしれません。

では、実際の症例写真をご覧ください。今回はウルトラと8000の両機とも使用していただきました。写真の左側が8000で右側がウルトラです。今回は、染め出し後に、コンタクト部分を矯正ワイヤーの上下（歯肉側と切端側）に分け、それぞれ2回ずつ（ウルトラは2連射で1回、8000は連続2回）行いました。その後、ブラケット周りの4辺（ブラケットの上下と両サイド）をそれぞれ1回ずつ当ててみました。

患者さんは中学一年生ですが、両タイプとも当て方に特別なテクニックを必要とすることもなく、「使用後に口の

中が爽快になって気持ちいい」とその後もその爽快感が病みつきになり、引き続き毎日楽しみながらお使いいただいています。さらに、以前から「ウルトラの方が使いやすい」という感想でしたので、あえて当てづらい右側にウルトラを使用してもらいましたが、それでもウルトラの方が使いやすかったと話してくれました。

仕上げ磨きとしてソニックアーでブラッシングを行うことで、ブラケット周りに残っていたプラークをほぼ除去することができました。

ブラケットなどの矯正装置が装着された口腔内はとても複雑なため、これまで毎日のセルフケアに時間がかかりストレスも大きくなりがちでした。「ソニックアー エアーフロス」なら、コンタクト部分に当てるだけ、とても手軽に使い、時間短縮につながります。気になるプラークの除去効率も「ソニックアー エアーフロス」の使用後、試しに歯間ブラシを通

してみたところプラークはほとんど取れなかったことから考えて、少なくとも歯間ブラシと同程度には除去できていると感じています。

どんなツールにも言えることですが、「まず自分たちで実際に試してみること」が大切だと常々感じています。実際に「ソニックアー エアーフロス」では、私たちが当初想像した以上に爽快感を得ることができました。矯正患者さんに従来から処方している「ソニックアー」と併用してご使用いただくことによる相乗効果も大いに期待しています。

また、矯正患者さんに限らず、オーバーフロスが気になる方へ新たなセルフケアツールとしてもご提案できそうです。

今後ともこうした新たな口腔ケアツールを積極的に導入していくことで、引き続き患者さんの口腔環境の改善に務めていきたいと考えています。



患者さんはブラケット矯正中の中学一年生（女性）。ブラッシングなしで染め出した状態。



8000はノズルの先が細くなっているため狙った部位にピンポイントで当てやすい。



ウルトラはノズルが少し長い分太くなっているため、近距離でも安定してポイントに当てることができる。



ウルトラ（右）、8000（左）ともにコンパクトなノズルで大きく開口することなく、臼歯部までアプローチできる。



左側（8000使用）。エアーフロス使用後、ソニックアーにて仕上げ磨きを行った状態。



右側（ウルトラ使用）。エアーフロス使用後、ソニックアーにて仕上げ磨きを行った状態。